



月刊 おおとい協力隊 新聞

つるおか大産業まつりに出店

去る10月半ば、小真木原公園で行われた「つるおか大産業まつり」に大鳥地域づくり協議会として出店しました。

当日は原木ナメコやモダシなどのキノコ類をはじめ塩蔵山菜や山栗、クルミ、お米などを出品し、大鳥の魅力の一端を紹介しつつ、販売を行いました。

やはり時期的にもキノコの人気は高いものがあり、特にモダシの問い合わせの多さが印象的でした。

逆に米どころ庄内でのお米の小売はなかなか難しいことを実感。付加価値をつけるか、売り方の工夫をするか…そもそも庄内をターゲットに売べきなのかどうか。考える余地が大いにありそう。

当日お手伝い頂いた方々に改めて感謝します。(砂)



狩りと僕と大鳥と…

狩猟が解禁されてから、何度か山に出かけた。冬の雪山には、僕の足音と、落雪の音がときたま僕を驚かせるだけで、生きた音が聴こえてこない空間。一人ぼっちで山にいると、無性に怯えてしまう。

狩りに出ることは、動物の命を頂きにいくことと、自分の命をも奪われる恐怖とを対峙させることだと思わされます。それでも、また雪山に誘われている気がするのには、長い都会の生活の中で失った野生の勘を取り戻したいからかもしれない。獲物をとれるレベルには程遠いが、少しずつ猟を覚えていきたいです。(田口)



田口隊員連載コラム 「大鳥に恋して♪」

二度目の大鳥の冬がやってきました。去年よりもいっそう、春～秋がせわしく過ぎ去っていったように感じたので「今年の冬は一休み…」とは言わずに除雪や狩猟に汗を流していきたい。

春夏秋冬をしっかりと感じられる大鳥が好きです。季節によってやる事が変わり、飽きずに取り組めるのは大鳥だからこそ。生きる技を覚え、自分の暮らしを作っていく。お金で解決できることが多くなった現代ではこういう暮らしは中々難しく、お金を稼ぐことばかりに執着してしまいがちですが、景気に左右されるのが弱点でもあります。体で覚えた技は環境さえあれば発揮できる。自力で立つために、生涯残るような力をもっと培っていきたいです。



米作りの現場

今年の秋は米の収穫作業を徹底して手伝い、これで稲作の一通りの流れに現場感覚で関わることができました。

広い面積を大型のコンバインで刈る人、もち米をバインダーで刈り天日乾燥する人、手刈りで“はさ掛け”に挑戦する人。手法は様々。自分に合った方法、必要な面積はどれくらいなのか。今年の経験をもとに来年の計画を立てなければなりません。

食糧という面ではもちろんなのですが、大鳥の風景を形成する上で稲作はなくてはならないものだと感じます。これが他の作物が混在した転作田だったら・・・やはり味気ないような気がします。米価は下がり続けていますが、何とか守り続けていきたいものです。(砂)

【新米パーティー&お茶のみサロンご案内】

今年の大鳥お茶のみサロンの第一回は、地域のみなさんのお陰で作ることができた協力隊の新米パーティーと同日開催いたします。

日にち：12月20日(土)
時間：11時～14時ころ迄
場所：繁岡公民館
※おかずの持ち込み大歓迎
※事前に連絡頂ければ当日は協力隊が迎えに上がります！

砂山隊員連載コラム「食・住・職」

既にご存知の方も多いかと思いますが、誉谷のダム脇の青い屋根の家に転居しました。少なくとも残りの任期間はこの住居に住むこととなりますので、よろしく申し上げます。

この住居は水道を引いておらず、山水をポリパイプで引き込んで使用していたようです。住むにあたってタンクを杉林に据え付け、パイプを組み合わせたり、伸ばしたり・・・貴重な経験をさせてもらいました。まだまだ修繕箇所もいっぱいバタバタしています。

家探しには繁岡集落の方々はじめ、多くの方にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

タキタロウ館の脇に15本の桜を植樹。



大鳥地域づくり協議会が中心となり、大鳥川の堤防の整備と、タキタロウ館の脇に桜を植樹した。草刈りや、木の伐採・運搬など、事前準備に3日。桜の植樹と堤防整備で1日。手を加えることで視界が晴れていくのを目の前に見ると、ちょっぴり頬が緩んでしまいます。一人で作業をしていると心も簡単に折れてしまいますが、大鳥のみなさんが体を動かす姿に励まされると、手足が動く。大鳥人一人一人の強さ・たくましさに、改めて感心させられました。景観が時に心を和ませることもある。春には堤防に座ってお弁当を食べてみるのもいいかもしれませんね♪(田口)

大鳥フェイスブックページ
『大鳥タキタロウ村』で検索！

発行元：大鳥地区地域おこし協力隊
住所：鶴岡市大鳥字寿岡112(大鳥自然の家)

隊員連絡先
砂山隊員：080-5099-5596
田口隊員：090-7757-7491